

結果の概要

1 結婚の状況

(1) この13年間の結婚の状況（平成14年成年者）

- ・ 第1回調査(20～34歳)時に独身だった者のうち、この13年間で結婚した割合は、男性48.4%、女性58.3%
- ・ 第1回調査時に「結婚意欲あり」の独身者の方が、「結婚意欲なし」より、この13年間で結婚した割合が高い

14年調査における第1回調査(20～34歳)時に独身だった者のうち、この13年間で結婚した割合は、男性48.4%、女性58.3%となっている(表1、図1)。

また、第1回調査時の結婚意欲別にみると、男女とも、「結婚意欲あり」の方が「結婚意欲なし」より、この13年間で結婚した割合が高い(図2)。

表1 性、年齢階級別にみたこの13年間の結婚の状況【14年調査(第14回)】

(単位：%)

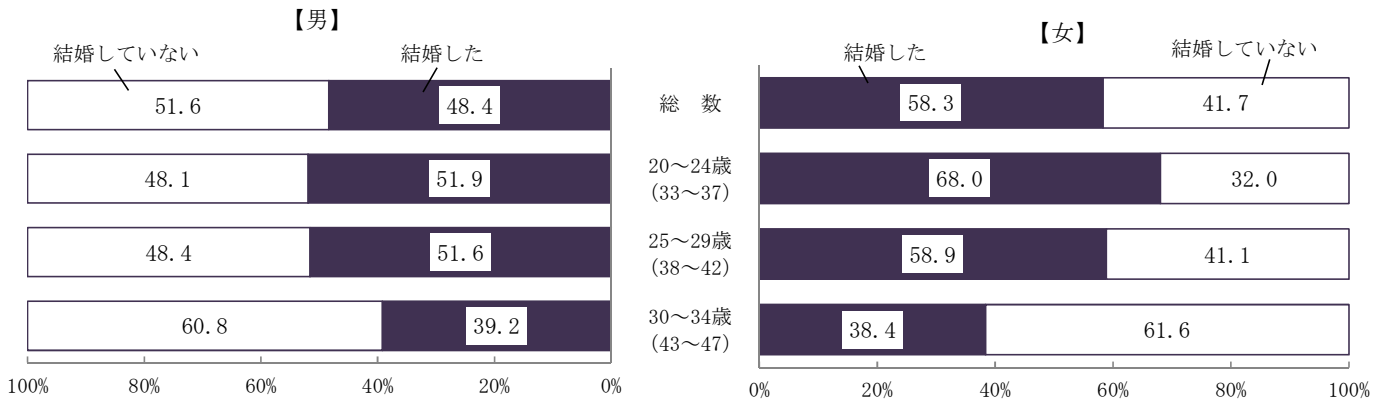
		第1回調査時の配偶者の有無			この13年間の結婚の状況		
		総数	配偶者あり	配偶者なし	結婚した ²⁾	結婚していない	
第1回調査時の年齢階級	男	(100.0)	100.0	36.6	63.4	30.7	32.8
	20～24歳(33～37)	(24.4)	100.0	3.5	96.5	50.1	46.4
	25～29歳(38～42)	(32.5)	100.0	30.0	70.0	36.1	33.9
	30～34歳(43～47)	(43.2)	100.0	60.2	39.8	15.6	24.2
内は第14回調査時	女	(100.0)	100.0	42.5	57.5	33.5	24.0
	20～24歳(33～37)	(25.9)	100.0	5.0	95.0	64.6	30.4
	25～29歳(38～42)	(32.9)	100.0	38.5	61.5	36.2	25.2
	30～34歳(43～47)	(41.2)	100.0	69.3	30.7	11.8	18.9

注：1)集計対象は、12頁(1)①を参照。

2)「結婚した」には、この13年間に結婚した後離婚した者を含む。

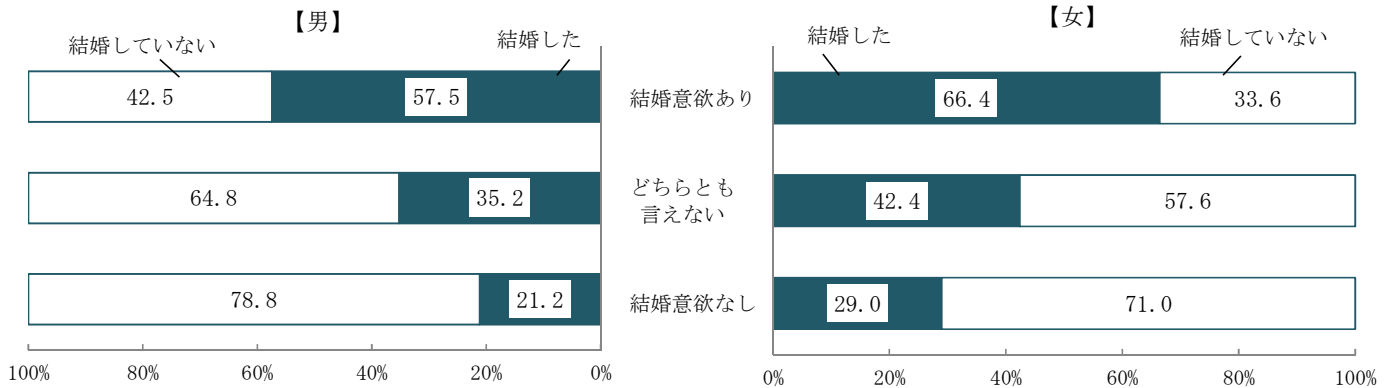
3)[]内は、第1回調査時に配偶者なしであった者を総数としたこの13年間の結婚の状況の割合である。

図1 第1回調査時に独身だった者の性、年齢階級別にみたこの13年間の結婚の状況
【14年調査（第14回）】



注：1)集計対象は、12頁（1）①を参照。
2)「結婚した」には、この13年間に結婚した後離婚した者を含む。
3)年齢は第1回調査時の年齢である。（ ）内は第14回調査時の年齢である。

図2 第1回調査時に独身だった者の性、結婚意欲別にみたこの13年間の結婚の状況
【14年調査（第14回）】



注：1)集計対象は、12頁（1）①を参照。
2)「結婚した」には、この13年間に結婚した後離婚した者を含む。
3)結婚意欲は第1回調査時で、「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚意欲なし」は「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を集計している。

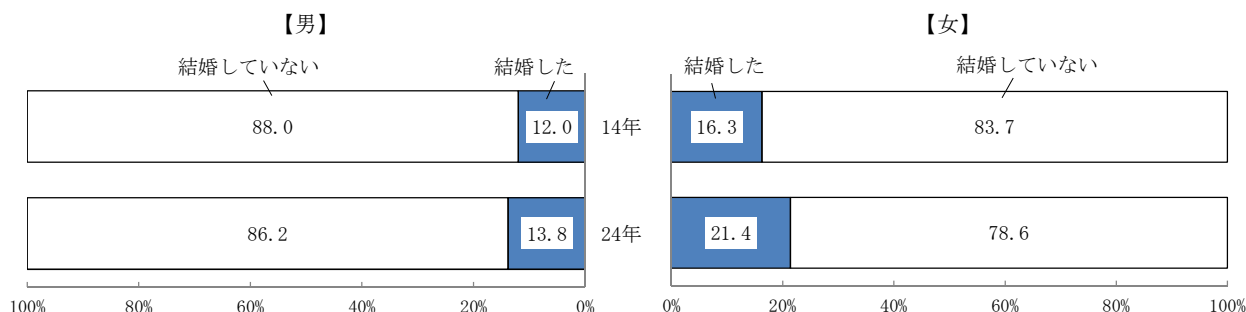
(2) 3年間の結婚の状況（平成14年成年者・平成24年成年者）

第1回調査(20～29歳)時に独身だった者のうち、結婚意欲別に3年間の結婚の状況をみると、10年前に比べ、男女とも、「結婚意欲あり」で結婚した割合は高くなっている

14年調査と24年調査における、第1回調査(20～29歳)時に独身だった者について、3年間の結婚の状況をみると、10年前に比べ、女性の方が男性よりも、結婚した割合は高くなっている(図3)。

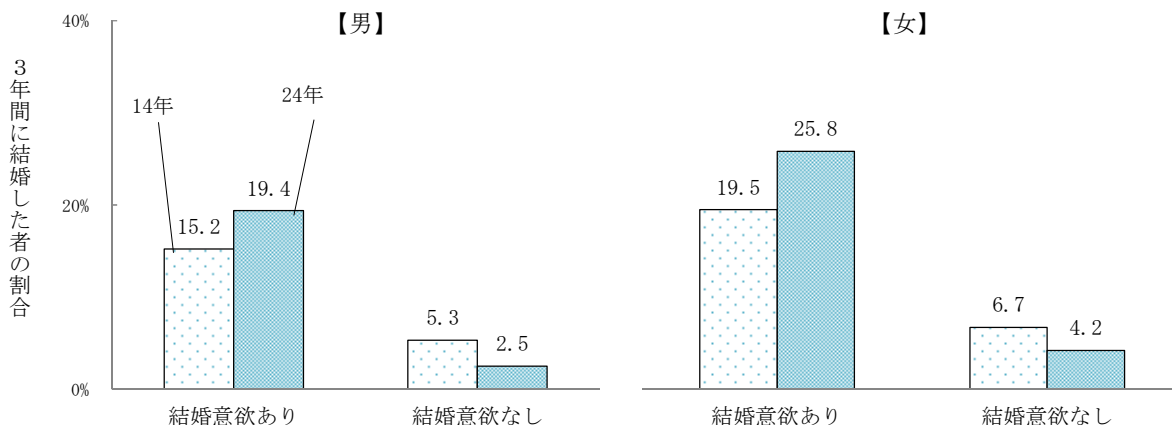
また、第1回調査時の結婚意欲別に3年間の結婚の状況をみると、10年前に比べ、男女とも、「結婚意欲あり」で結婚した割合は高くなっている(図4)。

図3 第1回調査時に独身だった者の性別にみた3年間の結婚の状況
【14年調査(第4回)・24年調査(第4回)】



注：1)集計対象は、12頁(1)②及び(2)を参照。
2)「結婚した」には、3年間に結婚した後離婚した者を含む。

図4 第1回調査時に独身だった者の性、結婚意欲の有無別にみた3年間に結婚した者の割合
【14年調査(第4回)・24年調査(第4回)】



注：1)集計対象は、12頁(1)②及び(2)を参照。
2)「結婚した」には、3年間に結婚した後離婚した者を含む。
3)結婚意欲の有無は第1回調査時で、「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚意欲なし」は「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を集計している。

2 独身者の結婚意欲等（平成 24 年成年者）

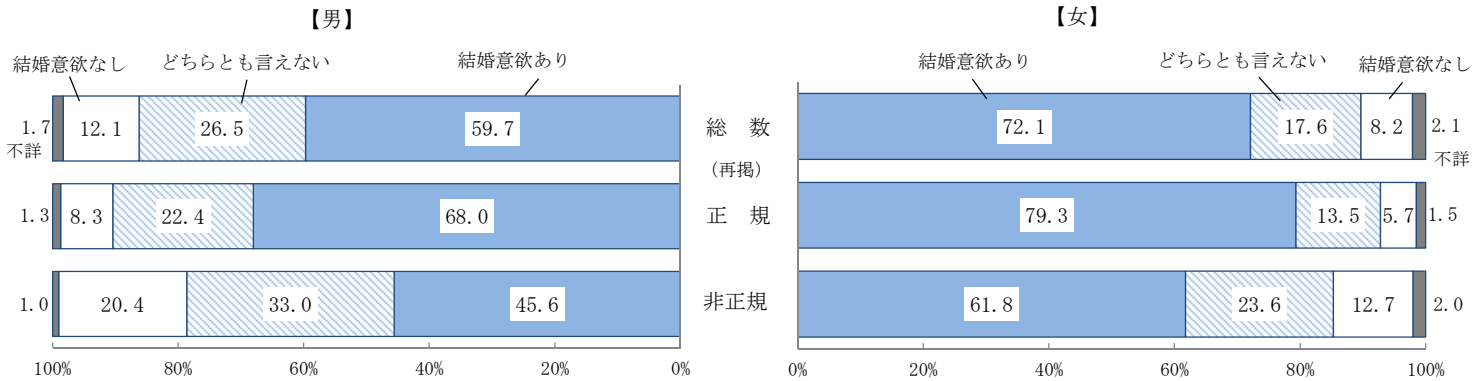
（1）独身者の結婚意欲と交際状況

- ・ 独身者の「結婚意欲あり」の割合は、男性 59.7%、女性 72.1%となっており、女性の方が男性より高い
- ・ 結婚意欲がある独身者の「交際異性あり」の割合は、男性 35.1%、女性 44.6%となっており、女性の方が男性より高い

24 年調査における第 4 回調査の独身者の結婚意欲を性別にみると、「結婚意欲あり」の割合は男性 59.7%、女性 72.1%となっており、女性の方が男性より高い。また、就業形態別にみると、男女とも、「結婚意欲あり」の割合は「正規」の方が「非正規」より高い。（図 5）

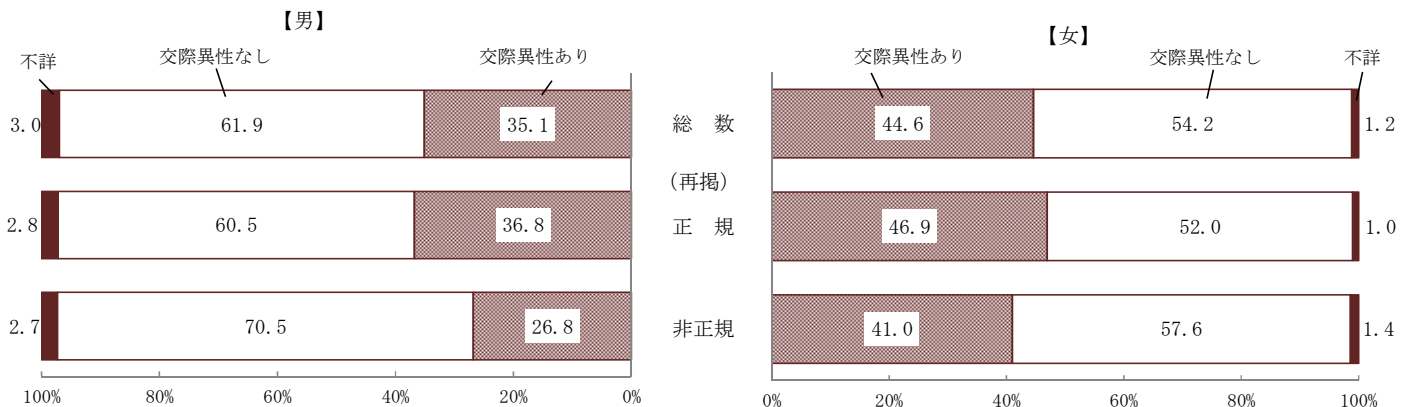
結婚意欲がある独身者の交際状況をみると、「交際異性あり」の割合は男性 35.1%、女性 44.6%となっており、女性の方が男性より高い。また、就業形態別にみると、男女とも、「交際異性あり」の割合は「正規」の方が「非正規」より高い。（図 6）

図 5 独身者の性、就業形態別にみた結婚意欲の状況【24 年調査（第 4 回）】



- 注：1) 集計対象は、12 頁（2）を参照。
 2) 「結婚意欲あり」は「絶対したい」「なるべくしたい」と回答した者を、「結婚意欲なし」は「あまりしたくない」「絶対したくない」と回答した者を集計している。
 3) 「総数」には、「正規」「非正規」以外の就業形態等を含む。

図 6 結婚意欲がある独身者の性、就業形態別にみた交際状況【24 年調査（第 4 回）】



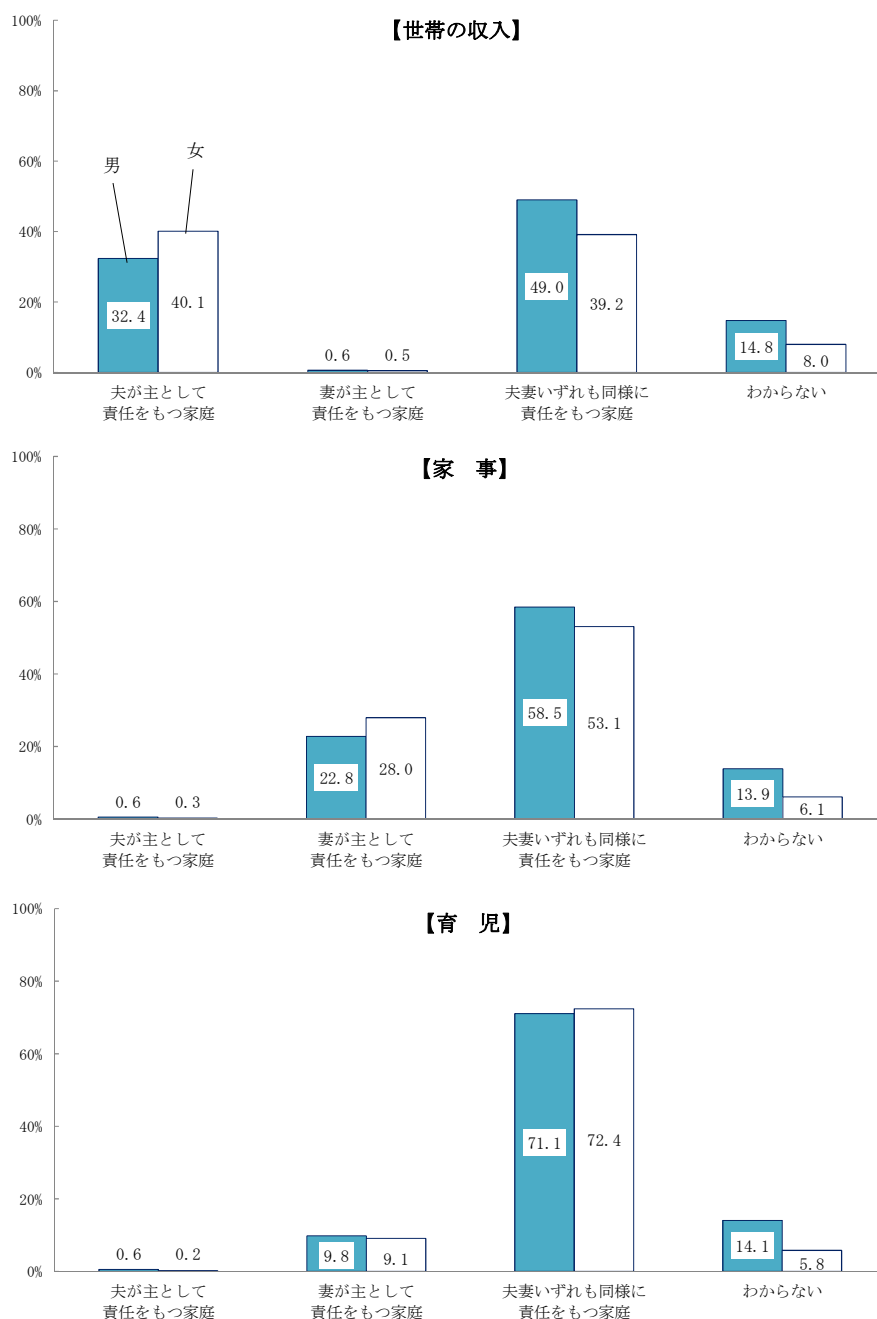
- 注：1) 集計対象は、12 頁（2）を参照。
 2) 「総数」には、「正規」「非正規」以外の就業形態等を含む。

(2) 独身者の家庭観

- ・ 男性は「世帯の収入」「家事」「育児」全てで「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合が最も高い
- ・ 女性は「世帯の収入」は「夫が主として責任をもつ家庭」「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合がどちらも約4割と高く、「家事」「育児」は「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合が最も高い

24年調査における第4回調査の独身男女の家庭観をみると、男性は「世帯の収入」「家事」「育児」全てで「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合が、それぞれ49.0%、58.5%、71.1%と最も高い。女性は「世帯の収入」は「夫が主として責任をもつ家庭」の割合が40.1%、「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合が39.2%と高く、「家事」「育児」は「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」の割合が、それぞれ53.1%、72.4%と最も高い。(図7)

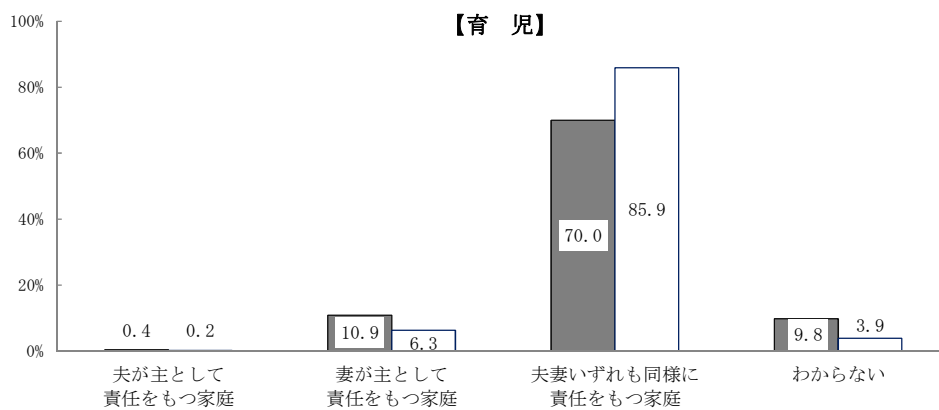
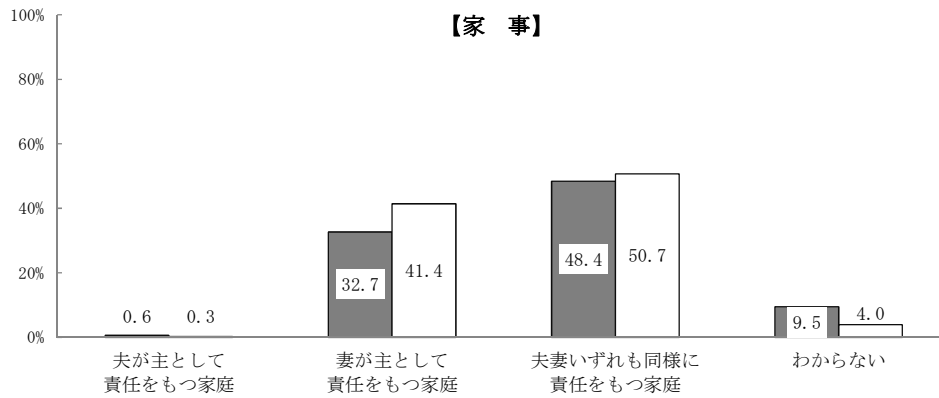
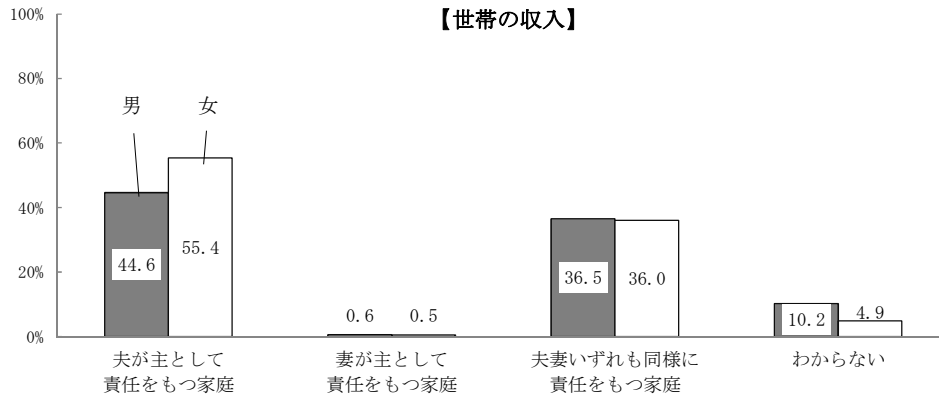
図7 独身者の性別にみた家庭観の状況【24年調査(第4回)】



注：集計対象は、12頁(2)を参照。

参考図 独身者の性別にみた家庭観の状況【14年調査（第5回）】

（「家庭観」について、14年調査は第5回調査結果のため、24年調査（第4回）との比較には注意が必要である。）



注：集計対象は、12頁（1）③を参照。

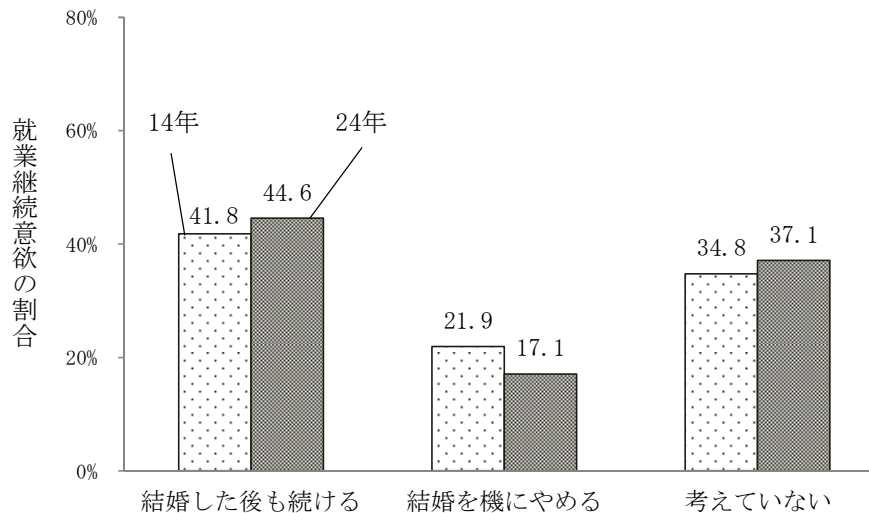
3 独身女性の結婚後の就業継続意欲等（平成 14 年成年者・平成 24 年成年者）

- ・ 独身女性の結婚後の就業継続意欲をみると、10 年前に比べ、「結婚した後も続ける」の割合は高くなり、「結婚を機にやめる」の割合は低くなっている
- ・ 「結婚した後も続ける」と回答した独身女性について、出産後の就業継続意欲をみると、10 年前に比べ、「出産した後も続ける」の割合は高くなり、「出産を機にやめる」の割合は低くなっている

14 年調査と 24 年調査における、第 4 回調査の独身女性（仕事あり）について、結婚後の就業継続意欲をみると、10 年前に比べ、「結婚した後も続ける」の割合は高くなり、「結婚を機にやめる」の割合は低くなっている（図 8）。

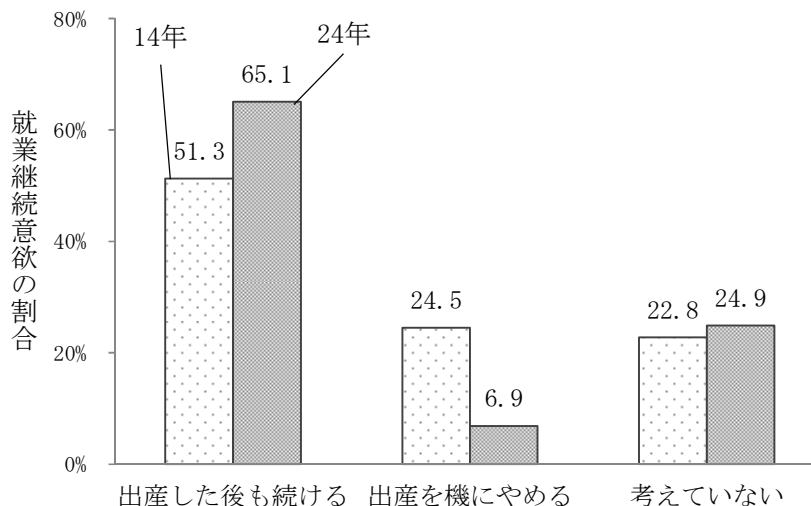
また、「結婚した後も続ける」と回答した独身女性について、出産後の就業継続意欲をみると、10 年前に比べ、「出産した後も続ける」の割合は高くなり、「出産を機にやめる」の割合は低くなっている（図 9）。

図 8 独身女性の結婚後の就業継続意欲の状況
【14 年調査（第 4 回）・24 年調査（第 4 回）】



注：集計対象は、12 頁（1）②及び（2）を参照。

図 9 「結婚した後も続ける」と回答した独身女性の出産後の就業継続意欲の状況
【14 年調査（第 4 回）・24 年調査（第 4 回）】



注：1) 集計対象は、12 頁（1）②及び（2）を参照。

2) 24 年調査の「考えていない」は、「続けるかどうか考えていない」「今後の出産は考えていない」と回答した者を集計している。